

平成十六年度 神石地域の水稻生育概況について

平成十六年十月 福山地域事務所農林局地域営農課

一、水稻の生育経過

(一) 育苗期 (品種：コシヒカリ)

四月中下旬は気温が平年より高く、日照時間も多かったため、概ね順調に生育した。特に四月中旬(四ノ十一、二十頃)は平均気温が三九度で平年よりも四、五度高くなった。これは五月上旬並の陽気であり、一部ではハウスが高温になり苗が徒長しているところも見られた。

(二) 田植え期

四月末頃から田植えが始まり、五月十日頃まで行われた。今年は降雨も少ないが、五月初めの雨により、順調に田植えが行われた。田植えヒキは五月連休頃であったが、今年は苗の生育が早く、やや老化苗の傾向も見られた。また、近年、田植え時期が早くなる傾向がある。

(三) 分けつ期

五月中旬は曇天が続き、生育はやや遅延気味であったものの、それ以降は天候も良く順調に生育した。特に六月は平年より天候も良く、分けつは平年より多くなった。草丈は平年より高く、葉色は平年よりやや濃く推移した。

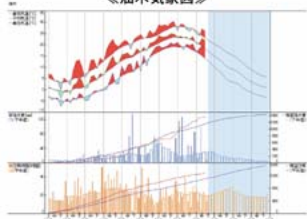
(四) 幼穂形成期

今年は猛暑であり、七月の気温が高く推移したため、平年より幼穂形成が早まった。また、夜間も高く推移し、イネの消耗から、無効分けつの発生が多くなった。七月に入って急に葉色が落ちた圃場も見られた。

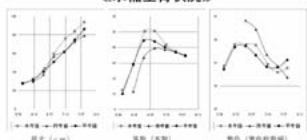
(五) 出穂期

気温が高く推移したため、出穂期は平年より七、十日程度早まった。コシヒカリは七月二十八日、八月一日頃の出穂となった。また、台風一〇号が接近し強風があった。

《油木気象図》



《水稻生育状況》



本文：気温が高く推移したため、生育が早まり平年より高くなった。
 実数：生育初期は平年より多くなったが、有効穂数は平年並みとなった。
 葉色：生育初期は平年並であったが、後半には急に葉色が落ちた圃場があった。

候も良く、分けつは平年より多くなった。草丈は平年より高く、葉色は平年よりやや濃く推移した。

(六) 登熟期

台風十六号(八ノ三十)・一八号(九ノ七)・二号(九ノ二十)と続き、非常に倒伏が多かった。登熟期は曇天が続き、降雨が多くなり、収穫作業も大幅に遅れ、刈り遅れや倒伏による穂落発生等、品質低下の被害が多くなった。また

(七) 品質低下

今年度は高温年であったが、湿度が高く感染に好適であったため、イモチ病が目立った。穂イモチの発生が多くなる。斑点米の原因となるカメムシ類は、近年、耕作放棄地等の増加によりエサとなるイネ科雑草が多くなっており、毎年発生数が多い傾向にある。

た、日照時間が少なく、気温も高く推移し、登熟に不利な条件が続いたため充実不良の粒が多くなった。

二、病害虫発生状況

病害虫名	発生量	備考
(1) イモチ病	多	7月13日 注意報発表
(2) 紋枯病	やや少	
(3) 胡点米カメムシ類	多	7月24日 注意報発表
(4) セシロウカ	やや少	
(5) トビイロウカ	少	
(6) イネムズソウムシ	並	

四、栽培の反省

今年度は登熟期の台風や長雨等による天災被害が多かった。倒伏に強いイネづくりを目指す必要がある。生育前半に過繁茂になりすぎない栽培を心がける。

来年度の栽培に向けて

・ 稲付け本数を一株当たり三、四本とし、大株になりすぎないように注意する。大株になりすぎると分けつ二本一本が細くなり、倒伏に弱くなる。
 ・ 生育前半は多肥になり過ぎないように施肥量に注意する。それでも前半の生育が旺盛である場合、やや強めの中干しを行う。また、圃場の排水が悪い場合も刈取時の機械作業をし易くするためにやや強めの中干しを行う。

・ 根がしっかりと張れるような土づくりを心がけ、土づくり肥料や堆肥(〇〇あたり一t程度)を入れる。稲ワラをすき込む場合は、年内のできるだけ早い時期に行う。

三、収量・品質

前半は生育も良好で豊作が見込まれていたが、後半の相次ぐ台風被害により、倒伏が目立ち、収量は平年並みややや不良であった。一等米の割合も例年より低下している。主な品質低下の